岩手縣

講演要旨

一　君萬民ノ待望　　大木隆造（午後七時四十分ヨリ同九時迄）

我々ハ支那問題ヲ世界的ニ學問的ニ研究ガ足ラナカツタ。只「チヤンコロ」扱ニシタ結果失敗シテシマツタ。他民族ヲ理解シ指導シ得ナカツタト思フ。

蔣介石ハ昭和十八年ニ相當ノ條件以ツテ來タガ、近衛首相及ビ軍部ガ我ガ方ヨリ提示シタ六項目ヲ固執シタ結果破談トナリ、本年三月小磯首相ノ許ニ和平ノ案ヲ持ツテ來タガ重臣層ハ反對シタ結果破局ヲ招イダ。斯如和平ガアツタ事ハ國民ハ知ラナカツタ此レハ政治力ノ缺除ノ點デアルト思フ

日本ハ支那ヲドウシタカト言ヘバ侵略シタノデアル。教育ヲ以ツテスレバ文化侵略經濟ヲ以ツテスレバ經濟侵略デアル、其ノ結果軍閥財閥ニ對シ徹底的排日抗日ヲナサシメタノデアル。

528

岩手縣

軍部ハ世界ノ科學ヲ知ラズ貧弱ナ學問許リカニシタ爲遂原子爆彈ト言フ科學戰デ負ケテシマツタ。

言論ノ自由ニ依ツテ色々ナ政黨ガ出來様ガ今迄ノ古イ首腦部連中デハ同ジ事ダ、東亞聯盟ガ左翼トカ右翼トカ批判スルガ之ハ御維新ヲ推進スル爲デアル。

政治力ノ結果ハ政府デモナク、官憲デモナイ、即チ一君ニ對シ素直ニ萬民ガ　天皇ノ下ニ歸一シ奉ル事デアル、必要上ノ中間層ヲ拂拭シテ諸君ト直結スベキデアル、恰モ特權ノ如ク言フ官憲デハ決シテナイ、一君萬民ニ依ツテ總ユル問題ガ解決出來得ルト思フ。威嚇ト特權ヲ振リ廻ス者デナク、若イ青年ニ素直ニ純眞ニ日本再建ニ邁進スル事デアル。

國民總懺悔

西野瑞龍（午後七時ヨリ七時四十分迄）

大東亞戰爭ハ遂ニ終結シタ。私ハ僧侶デ政治ヲ談ズベキデハナイガ時代ト共ニ法衣ヲ投ゲテ、否、着タ儘戰ハネバナラヌ又國滅ビテ佛モ神モナ

岩手縣

イ、正シク國ヲ建テテ生活シ先ヅ　天皇ニ歸一シ奉ル事デアル。

我々ノ指導者石原將軍ハ東亞聯盟ノ指導原理ヲ以ッテ、大理相ノ下ニ奮起シテ居ル、戰爭ニ負ケタトハ武力ト覇道主義ヲ以ッテ勝ウトシタカラ此ノ結果ニナリ天祐ハナカッタノデアル、日本帝國ハ絶對ニ滅亡シナイ滅ビタモノハ覇道主義ト個人主義デアル、日本ガ絶對ニ持ツベカラザルモノ、ミガ滅ビタ度ケデアル

我々ハ絶對　天皇ニ歸一シ奉ラネバナラヌ、現神天皇ハ天ノ岩戸ニ御隱レシタカラ我々ハ總懺悔シテ天ノ岩戸カラ再ビ御出ニナル樣御祈スルモノデアル。

岩特秘第三七號

昭和二十年九月十八日

岩手縣知事 宮田爲益

内務大臣殿

東北地方總監殿

首相宮殿下ニ對シ奉リ東亞聯盟同志會花巻分會ノ建言文裏面入手ニ關スル件

東聯顧問石原ノ勁挙ニ關シテハ嚢ニ報告セル處ナルガ本月十六日管下西磐井郡一關町ニ於テ開催セラル、東聯宮城岩手聯合會員大會ニ出席スベク一應

管下膽澤郡水澤町

保安課 20.9.26 第 号

東亜聯盟同志會員　高橋平助

万ニ會員佐藤俐外數名ト共ニ滯在中（十四、五日）

管下西磐井郡一關町所在

一關中學校長　前野喜代治

ハ佐藤俐ニ對シ講演會ニ學生ノ傍聽ヲ禁止スル旨別紙(一)ノ如キ書面ヲ郵送シタル處石原ハ憤慨ノ余リ會員佐藤俐ヲシテ該文書ヲ同封

首相宮殿下ニ對シ希リ別紙(二)ノ如キ建白書ヲ郵送セルガ其ノ内容

別添ノ通リニ有之動靜鋭意注視中ナルモ

右狀況及報告候也

記

東亜聯盟同志會顧問石原莞爾（言動）

一、橋本欣五郎ガ抑留トカ出頭命令受ケタトカ言々報道サレテ居ルガアンナ人間ハ當然デアツテ何ノ不忠義モナイ俺ニモ來レバ良イト忠

ツテ居ル、ソウシタラ俺ハ戰爭犯罪者デハナク戰爭責任者デアルト言ツテ東亞聯盟ノ主張ヲ堂々ト言ツテヤル考ヘデ居ル、恐ラク俺ノ言フ事ヲ聞イタラ敵ノ者モ喜ンデ呉レルダラウト思フ、遠カラズ俺ニモ何トカ話合ガアル事ト思ツテ自分モ其ノ考ヘデ居ル

二、東條首相ハ仲々死ニソウガ無イ、ヨクヨク命根性ノ汚イ野郎ダ。若シ俺ガ東條ダトスレバ既ニ陛下ノ大前デ彼ノ時腹ヲ切ツテ居ル。

三、日本ハ言論ヲ抑壓シテ來タ俺カラ言ハセレバ敗戰ノ責任ハ此處ニ大イニアルト思フ、殊ニ特高警察ニ於テアメリカニ四十年位文化ニ思想ニ比ベテ遅レテ居ル物ニ例ヘテ言フナラバ、ニユヨークト東京ハ、東京ト水澤ト違フ位デアルト考ヘレバ良イ、

日本ヲシテ斯アラシメタノモ特高警察ノ責任アリト言ヒ得ル、今ニ米大統領トルーマンヨリ感謝状ガ來ルカモ知レナイ、又反面自由ヲ抑壓シタカラト言ツテ思想犯罪者トシテ呼出状ガ來ルカモ知レナイ

（若干冗談ニ語レリ）

四、此レカラ教育モ徹底的ニ變革スル必要ガアル一ノ縣ノ中學校長ノ樣ナ大馬鹿者ガ日本ニ未ダ々々殘ツテ居ルカラ飽キレタモノダ、直ニ首ニスル必要アル　生徒ニ思想運動ニ加入スルナト言ツテ居ルガ今ノ中ニ此ノ青年時代ニ思想運動ニ加入シナクテ何時加入スル時ガアルカ、全々正反對デアルカラ困ル

五、此レカラ生徒モ學校ニヤル必要ハナイ、寺小屋式デ塾的ニ教育スル必要ガアル、東亞聯盟ノ各支部デハ此ノ方法デ今後ヤル方針デアル

六、東亞聯盟ハ此レヲ解剖スルニ共産主義モアリ社會主義モアリ、民主主義モアリ總ベテヲ網羅シテ居ルガ此ノ各主義主張ノ長所ヲ取ツテ短所ヲ捨テ、ノ綜合デアルカラ何處ニ出シテモ恥カシクナイ、米國モ嫌クハ思ツテ居ラナイラナイ蔣介石モ喜ンデ居ル只ソ聯丈ハ

5-27

我々ノ妻ヲ余リ好ンデハ居ナイ樣ダ

云々

岩手縣

528

別紙(一)

拜啓

秋冷漸ク相加候　貴下愈々御健勝奉賀候　陳者過日當校學徒河野及干原ノ兩名ヲ鶴岡方面ニ御誘ヒ行キ石原閣下ニ　ノ機ヲ與ヘ被下候由憂國ノ至情ヨリ若キ學徒ヲ御激勵被下候事一面ヨリ申セバ有難存候然レ共申ス迄モ無ク學徒ハ未ダ何レモ未成年者ニテ且ツ一意專心學徒ノ本務ニ精進セザルベカラザル身分ニ候間餘事ニテ心ヲ奪レザル事要ト存候況ンヤ學校並ニ父兄ニ無斷ニテ他府縣マデ同行セシムルガ如キハ迷惑至極ニ候小生ハ固ヨリ石原閣下ヲ中心トスル方々ノ思想乃至行動彼レ是レ批判スル意見ハ全然無之候モ純眞ナル學徒ヲ思想團体又ハ政治結社等ニ近接シ詳キ關心ヲ寄セシメ以テ學徒ノ本分ヲ幾何ニモ疎遠セシムルガ如キ事ヲ好マザル次第ニテ候尚洩レ承レバ近日當町ニ於テ右ノ方々ニ依ル講演會御開催ノ由何卒此ノ會ニモ出席勸誘又ハ其ノ會

ノ準備的仕事等學徒ヲ御使用被下ザル様特ニ願上候申ス迄モナク斯ル
會ニ未成年者ハ勞務ヲ斷ジテ許サザル旨一ノ關警察署長モ明言サレ居
候次第此ノ邊何分ニモ御諒承被下度
右學校トシテノ立場ヲ申上ゲ貴意ヲ得タク如斯御座候

九月十日

一ノ關中學校長

前野喜代治

佐藤様

別紙(二)

九月十五日

東亞聯盟北上支部

東久　首相宮殿下

革新ノ時代トハ指導者ガ指導力ヲ失ヒタル時デアリマス

學徒當局モ生徒ノ信頼ヲ失ヒ學徒内ニハ必然的ニ思想運動ガ展開セラルルニ至リマス是ハ發熱狀態ト申サネバナリマセヌガ一面ニ病氣ヲ克服スル自然作用ニ外ナリマセヌ。日本ハマルクス主義ニ對スル恐怖心ノ爲十數年來權力ヲ以テ學内ニ於ケル思想運動ヲ禁止シテ居リマス。是レガ學校當局ノ惰[illegible]落ヲ甚カラシメ新日本建設ノ基礎成立ヲ妨害シテ來タ重大ナル原因ト申サネバナリマセヌ。

殿下ノ内閣ニナリマジテモ生徒ノ信頼全ク無キ一ノ關中學校長ガ別紙ノ如キ態度ヲトツテ居ルコトハ誠ニ遺憾ノコトト存ジ

謹ンデ御報告申上ゲマス

岩手縣

岩特秘發第三八號

昭和二十年九月十八日　岩手縣知事　冨田儔益

內務省警保局保安課長　殿

東北地方總監第一部長　殿

東亞聯盟同志會岩手縣大會開催狀況ニ關スル件

動靜

東亞聯盟顧問石原莞爾九月十三日盛岡驛着十六時十六分東北本線下リ列車ニテ山形ヨリ來盛市內材木町法華寺ニ一泊十四日十六時四十四分盛岡發東北本線上リ列車ニ管下水澤ニ向出發

要旨

岩手縣

○東亜聯盟ハ指導原理ノ建設途上ニ於テ戰爭ハ終決シタガ吾々ハ此儘ノ体勢デハ必ズ負ケルト信ジテイタ

敗戰ノ原因

1 國民道義ノ頽廢

2 軍官ノ徹底セル墮落

3 官僚統制ニヨル國民自由ノ壓迫

皇國再建ノ目標

1 國民ノ總懺悔

2 都市解体ノ實現

3 簡素生活ノ徹底化

東亜聯盟同志會岩手縣各支部共催ノ本ニ本月十四日岩手公園廣場ニ於テ同會顧問石原莞爾ヲ招致シ講演會ヲ開催シタルガ状況左記ノ如ク論旨極メテ反軍反官的ニ終止シタルモ何等ノ警察事故無ク午后一時散會セリ

右及甲報候也

記

一日時　九月十四日　自午前十一時 至午後一時

二場所　岩手公園廣場

三聽衆　約一萬名

四會場ノ狀況　各支部及同準備會ハ各々支部旗ヲ捧ゲテ集合シタルガ特ニ當日ハ祭典時ナル爲田舍ノ婦女特ニ多カリキ

五聽衆ニ與ヘタル感銘ノ狀況　聽衆ニハ戰爭ノ過勢失念的境地ニアリタル際ノ反軍官的言辭ハ殊外私戰タル感勘カラザルモ何等警察的事故等ナシ

六講演ノ要旨

東亞聯盟ハ指導原理ノ建設途上ニ於テ戰爭ハ終ツタ、東亞聯盟ハ東條内閣トハ絶對デアツタ、私達ハ此ノ儘デ行ケバ必ズ負ケルト言

岩手縣

フテ移ツタモノデアル。戰爭ニ何故負ケタカト言フト國民ハ密カニ闇ヲシタシ軍官モ自ラ闇ヲシテ居タノデアル。例ヲ示セバ官吏ハ軍需會社ヨリ賄賂ヲ貰ツテ居タ。ソレガ國民道義ノ廢頽シタ大キナ原因トナツタ。軍官ハ皆東條ノ眞似許リシテツマラヌ結果ヲ來シタノデアル國民ハ軍ト警察ヨリ壓迫ヲ受ケテドウニモナラナカツタカラ積極的ニ何モ出來ナカツタ。ソシテ亦天祐神助モ無カツタノデアル神樣ニハ闇ハナイ。軍官國民ガ闇ヲシテ、戰爭ニ勝テルト思フテ居タカラ困ル

世界最終戰爭ハ數十年後ニ近イテキル我々ハ同志ノ結合ニ依ツテ八紘一宇ヲ目標ニ神樣ノ御示メシニ從ツテ理性ニ立脚シ悲感シテ居ナイ

官吏ハ統制ト力機械イジリ許リシテ實際無責任デアル。之ガ官吏ノスル仕事デアル。東條内閣ハ何ヲシタカト謂ヘバ法律ノ大増産ヲシタ小便ニ行クニモ警察ニ屆出デ隣組長ニ屆出デロト言フタ樣ナモノダ

此ンナ事デハ今度ハ見透ヲ付ケナケレバナラヌ。我々東亞聯盟ハ之

532

ヲ持ツテ居ル

今後世界ハソ聯ニ附クカ米國ニ附クカ日本ハ日露戰爭前ニ戻ツテシマツタガ然シ八紘一宇ハ閉サレヌ此ノ際日本人ハ數年米國ノ眞似ヲスル事デアル道德ハ頽廢シタ田舍ヨリ盛岡、盛岡ヨリ東京、東京ハ一番惡イ、モウ都市ハ解体スル事ダ處ガ反對ニ東京ヲ作ウトシテルカラ驚ク。我々ハ此ノ際國民皆農デ働カネバナラヌ。次ノ文明ハ都市ヲ解体シ娯樂ヲ廢シテ田舍デ再建スル事ダ、米英ソハ勝ツテ進歩ガナイカラ我々八紘一宇デ世界最終戰爭ニ勝ツ事ヲ確信シテヰル。蔣介石ハ戰後日本ト提携セネバナラヌト謂ヒ日本兵ヤ婦女子ニ對シ暴行等ヲ加ヘテハナラヌト聲明シテ居ル、驕ラズニ提携シヤウト言ツテル處ハ確カニ偉イ、蔣ガ日本ニ近イテヰルノハ謀略ダト言フガ決シテソウデナイ、孫文ノ三民主義ヲ主奉シ救國主義民族主義ニ力ヲ入レテ居ル吾々ハ敗戰ニ依ツテ感ジタ覇道主義ヲ改メ弱キヲ助ケ

ネバナラヌ今後敗戰ニ依ッテ日支提携ハ出來ル事ヲ確信シテ居ル。
ソ聯ハ朝鮮滿洲ニ侵入シテ來テ帝國主義ガ擡頭シ非道ナ事ヲシテ居ル勝ッテ強クナッタラ變ッテ來タ。
日本人ハ朝鮮人ニ對シ何ヲシタカ警察官ハ事如ニ泥棒拔ヒニシテ彈壓シタ、特ニ特高警察等ハ愚ニモ付カナイモノガ存在シテ彈壓シタカラ彼等ハ獨立ヲ主張シタ。日本ガ世界三大強國デアッタガ此度ノ戰爭デ、褌擔ギニ落チタガ將來横綱ヲ投ケ様ト思フ、其ノ方法ハアルガ同志以外ノ者ガ澤山居ルカラ話サレナイ。
日本再建ハ
一、國民總懺悔
二、都市解体
三、簡素生活
ノ三ツデアル、東條ハイラザル戰時刑事特別法ナルモノヲ施イテ國

民ノ自發的生活ヲ阻ンダ、次ニハ總選擧デアル官制議員デ「ロクナ者」ハ居ラナイ、軍官民許リ悪イ譯デハナイ、我々モ悪イ、賄賂ヲ持ツテ行ツタリ闇ヲシタリシタ懺悔セネバナラヌ今後ハ最モ良イモノヲ創ラネバナラヌ

次ノ都市解体ハ前述ノ如クニシテ非常ニ重要ナ事デアル。

次ニ簡素生活ノ問題デアルガ米國ノ映畫等ニ宇頂天ニナツテハイケナイ、進駐軍ガ來タノデ警視廳デ女郎ヲ八百人募集シタ處志願者ガ二千人モアリ同ジク横濱デハ二萬人モアツタ驚ク外ハアリマセン、如何ニ總理大臣ノ宮殿下ガドウ政治ヲ運營シタ處デ日本ノ風俗道義ハ廢頽シテ行クデセウ、前ノ歐洲大戰ニ破レタドイツノ全婦人ハ淫賣シタ此レヲ見タヒツトラーハ敢然トシテ立擧リベルサイユノ條約ヲ破棄シ戰ツタ、吾々モ敗レタガ生活刷新シ本氣ニナツテ立チ擧ウデハナイカ、其ノ裡ニ進駐軍ガ歸ツタラ東亞聯盟大會ヲ開キ特別列

車ヲ以ツテ上京セシメ盛大ニ簡素ナ大會ヲ開キマスソシテ映畫モシ
マス。

534

特秘思ニ發第九八八號

昭和二十年九月二十四日

三重縣知事 清水重夫

事務官 [illegible]

内務大臣 山崎巖殿

東海北陸地方総監殿

元立憲養正會員ノ動静ニ関スル件

管下ニ於ケル元立憲養正會員ノ動静ニ関シテハ戰災ニ依ル轉住等ニヨリ住居変動ノ者多ク之ガ動静ニ関シテハ極力移轉先ノ調査ヲ行フト共ニ向後ニ対スル動向注視中ナルガ縣下ノモノハ目下表面平静ヲ持シアルモノ、如キモ内心会再建ノ絶好機会ナリトシ旧同志トノ氣脉ヲ通ゼントスル氣運濃厚ナルモノアルヲ認

元津[illegible]支部長 [illegible]之助 再建ヲ画策中。其他 [illegible]視中

保安課 20.10.1 第 号

メラル曽ッテ同会津聯合支部長タリシ加藤松之助ハ其ノ意慾最モ強烈ニシテ田中沢ニトノ連絡ニ努メツヽアル模様ナルニ就而ハ嚴重仝人ノ行動注視中ナリ

而シテ一志郡香良州町元会員山本仁一ハ這ノ間ノ消息ニ関シ所轄署視察員ニ左記談話ヲ為セリ

右及申報候也

左　記

今後立憲養正會ヲ復活シテ自分ヲ津支部長ニ擔キ上ケヨウトノ元会員ノ空気ガアルガ自分ハ現在ノ処静観シテ居ル其ノ理由トスル処ハ養正会ノ従来ノ主義綱領ハ唯天皇ノ為生命財産ヲ投出セトノ運動デアッタガ敗戦後マッカーサーノ指揮下ニ在ッテハ本運動モ敵國ヲ刺戟スル事トナリ弾圧ヲ覚悟セナケレバナラヌ今後ハ自由主義ヲ標榜シタ運動デナケレバナラヌ如何

ニ結社ノ自由ガ認メラレテモ養正会ノ主義綱領其ノマヽヲ
以テ運動スル事ハ考慮スベキデアルト考ヘテ居ル仄聞ス
ルト加藤松之助君ハ旧同志（會員）ノ許ニ復活ヲ図ル
ベク運動ヲ開始シテ居ルソウデアル　云々

536

岩特秘發第一〇六號

昭和二十年九月二十六日

岩手縣知事 宮田島斎

内務大臣 殿

東北地方總監 殿

同情的ナルモ特異動向ナシ

橋本欣五郎ハ戦争犯罪者決定ニ伴フ元赤誠會員ノ動向ニ關スル件

要旨

○吾等統領橋本ノ戦争犯罪者タルコトハ想像ジテオツタガ第一次ニクルトハ思ハナカツタ、

○親分ガ斯クサレル以上我等モ其ノ一人トシテ三年位ノ禁錮或ハ公

岩手縣

保安課 20.10.4 第 号

警保局 20.10.3 号

民權ノ剥奪位ハサレルダラウ
○橋本ノ處分ハ重クテ無期カ十年位デ死刑ニハナラヌダラウ
○大東亜戰爭ハ東條ヤ橋本ニヨッテ起シタモノデハナイ　當時一億
國民ガ植民政策上南方資源獲保ノ爲生活上解決ノ手段トシテ選ン
ダモノデアルガ橋本ノ戰爭犯罪ハ實ニ同情ニ値スル

元赤誠會統領橋本欣五郎戰爭犯罪者決定ニ關シ舊會員ノ動向内査スルニ
開戰ハ當時ノ對内的對外的國家事情ヨリ正ニ聖戰ニ外ナラズトナニモノ
アルヤニ思推セラレ鋭意過激分子ノ動靜注視中ナルガ概シテ平靜關係
者中ニハ既ニ態度ヲ表明シアルモノ等アリテ特異事象認メラレザルモ舊
會員ノ意嚮左記ノ通ニ有之
右及申報候也

記

元赤誠會臨灘支部長　郷右近東四二

東岩二七

527

昨日仙台ノ憲兵隊參謀ノ志甫大佐ニ合ッテ來タガ志甫大佐モ戰爭犯罪者名簿ニ思想指導責任者トシテ日本デ橋本欣五郎・石原莞爾トモウ一人ノ三人ノッテアルト言ッテ居タガ第一次ニサレルトハ思ハナカッタ。處分ガサレタトシタラ私モ戰爭犯罪者トシテ三年位ノ禁錮ガ輕クテ公民權剝奪位ハサレルダロウ。然シ日本人カラ見レバ決シテ戰爭犯罪者トハ言ハレナイ。逆ニ戰ガ勝ッテ居レバ戰爭犯罪者トシテ其ノ刑ガ重ケレバ重イ人程國家ニ盡シタ人ナハヅデアルト思フ。此ノ戰爭ハ敗レタト言ッテモ日本ハ正シイ戰ヒデアリ飽迄聖戰デアルト言フ事ヲ今度戰爭法廷ニ立ツ人ハ堂々ト主張シテ世界ニ示サナケレバ此ノ戰爭目的ヲ敗ケタガ故ニ誤ッテ世界カラ見ラレテ終ッカラ堂々ト戰フベキテアルト思フ

戰爭法廷ニ立ッタ場合自決スルカ默ッテ服罪スルカ堂々ト聖戰ヲ主張シテ服罪スルカノ三ツデアルガドウシテモ聖戰ヲ主張シ法廷デ戰ッテ服罪

当 手 系

シテモラウコトガ一番大切デアル

橋本欣五郎戰爭犯罪者トシテモ死刑デハ無ク重クテ無期カ十年位ナモノト思ウ

元赤誠會岩手支部長　夢谷敏夫

一、今時大東亞戰爭ハ東條首相始メ當時ノ軍主腦部關係者ノミニ依ツテ起シタモノデハナイ一億國民ガ戰爭ヲシテ發展シヨウト言フ意志ガ無カツタカモ知レヌガ植民政策上又ハ南方資源ヲ獲得シ我ガ國ノ發展ヲ希望シタモノデアル日本ハ支那事變以來諸外國ハ包圍陣ヲ敷イテ貿易ノ制限ヲ加ヘテ來タモノデ生活上ニ付イテハ之ガ解決ノ手段トシテ選ンダモノデアル、負ケテ仕舞ヘバ戰爭ヲシナイ方ガ良カツタト誰モ考ヘル處デアルガ當時ハ皆戰爭スル氣分ニナツテ居タモノダ

二、橋本大佐ガ戰爭ニ關スル思想關係デ聯合軍ニ處罰サルル事ニナツタガ吾等ハ同情シナケレバナラヌ本然ノ日本人ハ皇國ヲ建設シテ行キタ

イザ一念デ遠山滿ノ様ナ思想家ガ殘ッテ居タ今度負戰ニ違ッテ日本傳統ノ精神ヲ投ゲテ一カラ十マデ米英主義ニ移ッテ行クト言フ事ハ者ヘモノデアル而シ戰ニ負ケタカラ如何ナル命令モ無理ノナイ事ト思フガ此ノ上ハ我等ハ良ク遣ッテ行キタイト思フ　云々

尚菱谷ハ元翼壯關係者ト連絡シ來ルベキ選擧ニハ立候補スルモノノ如ク現在進駐軍受入ニ關スル慰安施設關係者ノ中ニ入リ陣頭ニ立チテ遊閑地帶ノ上田移轉問題之レガ設置計畫等ニ奔走シ居ル狀態ナリ

岩手縣

1-38

特秘思ニ發第一〇〇〇號

昭和二十年九月二十七日

三重縣知事 清水重夫

内務大臣 山崎巖殿

東海北陸地方総監殿

右翼人物ノ動靜ニ関スル件

管下 津市相生町居住

津市會議員 柏木勇

右者地方思想結社天業翼賛挺身隊員ニシテ嘗テ國粋大衆党員タリシモノナルガ兼テ同志タル児玉誉士夫ガ政府政治幕僚トシテ就任シタルヤニ関シ面談ノ為去ル本月七日上京十二日皈郷シタルガ皈

来後所轄署視察員ニ対シ左記談話ヲ試ミタリ
仝人ニ対スル今後ノ動静引続キ視察中ナリ
右及申報候也

左記

去ル七日上京直ケニ児玉ノ官邸ヲ訪問シ刺ヲ通ジタル処警戒厳重デトッタガ柏木ダド呶鳴ッタラ即刻面会シテ呉レタ 政治幕僚デ大シタ存在デアル勅任待遇デ秘書五名ヲ控ヘテ豪壮ナルモノダ 其ノ裡デ如何ニ自分ガ厚カマシクトモ秦ラナ言葉モ使ヘズ唯祝辞ヲ陳ヘテ児玉ノ指示シタ某料亭ニ於テ待機シ饗応ヲ受ケタガ児玉ヨリハ今後ハマッカーサー元帥ノ指揮ニ従ヒオ互ニ要領ヨクヤロウト云フニ過ギナカッタ 自分モ種々意見ノ交換ヲスベク相当期待シテ居タガ核心ニ触レル事ヲ避ケ通リ一片ノ挨拶デアッタ事

ハ残念デアッタ　帰宅旅費ヲ貰ッテ帰宅ノ途銀座
ノ國粋大衆党本部ニ立寄ッタガ本部ノ連中ハ大変
ナ勢デ今回ノ選挙ニハ日本勤労同盟ノ旗ノ下ニ全國的
ニ活溌ナル選挙闘争ヲ開催スルノダト意気込ンデ居
タガ結局選挙法ノ改正ハ中央議会ノ改選後地方議会
ヨリ実施スルノダトノ意見デアッタ自分ハ元来水平運
動ヨリ思想團体ニ入ッタノデアッテ社大系統ノ者デ
アルガ一度國粋大衆党ニ入党スルト脱退サセナイ
今度モ自分ノ選挙ニハ日本勤労同盟ヨリ應援ニ行
クト言ッテ居ッタカラ　依然依頼シテ来タ　自分モ今
後地方選挙迄ニハ相生愛宕兩町ノ復興ニ盡力シ
タイ　即チ共同浴場、市営住宅建設衛生施設貫
通道路等ヤラネバナラヌ仕事ガ山積シテ居リ是等ヲ
至急ニ解決シテ所謂選挙ノ御土産ヲ作ッテオカネバナ

541

特秘思ニ發第一〇〇〇號

昭和二十年九月二十七日

三重縣知事 清水重夫

内務大臣 山崎巖殿
東海北陸地方總監殿

右翼人物ノ動静ニ関スル件

管下 津市相生町居住
津市會議員 柏木勇

右者地方思想結社天業翼賛挺身隊員ニシテ嘗テ國粋大衆党員タリシモノナルガ兼テ同志タル児玉誉士夫ガ政府政治幕僚トシテ就任シタルヤニ関シ面談ノ為去ル本月七日上京十二日皈郷シタルガ皈

保安課 20.10. 5金 第 号

来後所轄署視察員ニ対シ左記談話ヲ試ミタリ
仝人ニ対スル今後ノ動静引続キ視察中ナリ
右及申報候也

左記

去ル七日上京直チニ児玉ノ官邸ヲ訪問シ刺ヲ通ジタル処警戒厳重デアツタガ柏木ダト怒鳴ツタラ即刻面會シテ呉レタ政治幕僚デ大シタ存在デアル勅任待遇デ秘書五名ヲ控ヘテ豪壮ナルモノダ其ノ裡デ如何ニ自分ガ厚カマシクトモ斎ラナ言葉モ使ヘズ唯祝辞ヲ陳ヘテ児玉ノ指示シタ某料亭ニ於テ待機シ饗應ヲ受ケタガ児玉ヨリハ今後ハマツカーサー元帥ノ指揮ニ従ヒオ互ニ要領ヨクヤロウト云フニ過ギナカツタ自分モ種々意見ノ交換ヲスベク相當期待シテ居タガ核心ニ触レル事ヲ避ケ通リ一片ノ挨拶デアツタ事

ハ残念デアッタ　帰宅旅費ヲ貰ッテ帰宅ノ途銀座
ノ國粋大衆党本部ニ立寄ッタが本部ノ連中ハ大変
ナ勢デ今回ノ選挙ニハ日本勤労同盟ノ旗ノ下ニ全國的
ニ活溌ナル選挙闘争ヲ開催スルノダト意気込ンデ居
タが結局選挙法ノ改正ハ中央議会ノ改選後地方議会
ヨリ実施スルノダトノ意見デアッタ自分ハ元来水平運
動ヨリ思想團体ニ入ッタノデアッテ社大系統ノ者デ
アルが一度國粋大衆党ニ入党スルト脱退サセナイ
今度モ自分ノ選挙ニハ日本勤労同盟ヨリ應援ニ行
コト言ッテ居ッタカラ依然依頼シテ来タ自分モ今
後地方選挙迄ニハ相生愛宕両町ノ復興ニ盡力シ
タイ即チ共同浴場、市営住宅建設衛生施設貫
通道路等ヤラネバナラヌ仕事が山積シテ居リ是等ヲ
至急ニ解決シテ所謂選挙ノ御土産ヲ作ッテオカネバナ

143

電報譯 八月廿四日 午前 後 五時受理 外事別室

事務官

奈良縣警察部長發

警保局長 宛

管内ニ於テハ目下ノ処不穏行動ヲ認メラレサルモ
敵兵本土上陸云々ノ流言ヲ一部ニ見受ケラレ
タルヲ以テ此ノ種流言蜚語ノ取締リ及内地
在住朝鮮人ノ指導ヲ実施スルト共ニ人心ノ安定
ニ付キ壁新聞、ポスター等ノ掲出或ハ隣組回
覧板ヲ利用シテ極力人心ノ動揺防止ノ結果人心

極メテ安定ナリ

追而通牒ニ基キ各種ノ書類ヲ焼却処分ヲナシタリ

以上

1-44

電報訳　　八月十五日 通信室

事務官　　奈良縣警察部長

保安課長宛

貴電参照 管内左翼~~線~~尖鋭分子ニ対シテハ
張込ミ尾行ヲ実施又ハ通信検閲ノ強化
等ニヨリソノ行動ニ厳重ナル視察警戒スルト
共ニ要路高官ノ身辺警備機動警察ノ

大日本帝国政府

強化ニ依ル視察線外総力警戒ニ当リツヽ
アルモ不穏ナル動向ヲ認メズ左翼内鮮関係
ノ要措置者ニ対シテハ具体的準備ヲ完了セリ
管内ノ治安確保ハ万全ニシテ軍官誹謗
ノ言動悪質流言等ノ発生ナク人心平
静ナリ

大日本帝國政府

（折上リ國定規格B5 一八二×二五七粍）

545

電報訳　八月十七日　通信室

保安課長了　事務官

奈良県警察部長

保安課長宛

本日重大ナル発表ニ伴ヒ一般ニ県民就中戦死
遺族及戦傷者ニ対シテハ非常ナ衝動ヲ与ヘタ
ルモノニシテ一般ニ興奮ノ余リ不穏的成行ヲ漏ス
モノ又ハ経済界ニ於テモ一部不安定感アルヲ

大日本帝国政府

觀察セラルヽモ目下ノ処不穏行動ニ出ルモノナシ、

大日本帝國政府

（折上リ國定規格B5 一八二×二五七粍）

546

十九日午前十一時受

大日本帝國政府

警保局長宛　　　　奈良県知事　発

奈良所在中部第六十五部隊陸軍主計少尉上田

ヒロヨシ部下某見習士官本十七日十時本県輸送

課長ヲ訪問ノ上貨物自動車十台乃至

以下電報ナシ

（國定規格B5，一八二×二五七粍）

546

府政國

課長ヨリ訪問ノ上ニ貨物自動車十台乃至

以下需要報ナシ

1879 〇二八〇 ホム

イリ 第二カ ナラ ニカ コ三

ナイムシヨウレケイホキヨクチヨ土

緊急官報

トCC四五アウヌヌオレリナノマルナレミオナウマリナマワルオナムヌエ

モウマホアスオセマムワルサニキヘチキヤケニアウヌヌノオママミシム

テヨオホアチケミハノレミムレシダアヘホチエネヌマメオエリエムミルウリ

アオウウロロリナマエメチエモホメルワネヌメオエエヤツハムムレルナ

森田

21.8.18

CO イウヒレ

大

県 輸送

尉 上田

案

定規格B5 一六二×二五七粍

5-47

電報訳　八月三十日　通信室

~~保安課長~~　~~事務官~~　奈良縣知事発

警保局長宛

聯合軍進駐ニ関シ各種ノ流言式ハ憶測的言辞

等流布シタルタメ一般婦女子ノ恐怖心ヲ喚起シ

一方経済界ニ於テモ不安動揺ノ徴候アリタルヲ以テ

警察ヲ挙ゲテ指導取締リヲナシ以テ治安維

大日本帝國政府

持ニ当タルト共ニ市長村長隣組ヲ通ジテ流言ノ防遏ニ協力セシメ係ニラジオ班ノ活動ニ依リ人心漸ク安定シ平穏ヲ帰シツヽアル。

八月二十三日十九時三十分頃管下南葛城郡御所町葛城堤防工ニ(之迄ニ不注意ヲ勝手ニシテ国民ヲ苦シメ、国家ヲ危クシ愈々……トナリテハ聖断ヲ仰ギ責任ヲ天皇陛下ニキセタテマツリシ大逆無道

(折上リ固定規格B5 一八二×二五七粍)

ノ重臣僚官憲ヲ葬レ、降伏ニ賛成スル忠良
ナル臣民ハ一人モナイ 敵ハ天皇陛下ヲ戦争
ノ責任者トシテ死刑ニスルト言ッテ居ル。之デ降
伏ガ出来ルカ。立テ立テ忠良ナル臣民。降伏ハ
絶対反対ダ」ト五種類ノ不穏文書ヲ五六
枚撒布シアリタルヲ以テ直ニ管内容疑者ノ捜査
ニ努メルト共ニ厳重視察取締中ナリ。尚在留

外国人（朝鮮人）ノ動向ハ目下ノ処異状ナシ

以上

大日本帝國政府

（折上リ國定規格B5 一八二×二五七粍）

電報譯

九月五日　通信室

各府縣長官　警察部長殿

保安課長／事務官

警保局長発

右翼、左翼、特別要視察人ノ特異ノ動向ヲ認メス、復員軍人又冷静、徴用員ハ軍需関係方面ハ目下ノ處當局ノ具体的ノ措置ヲ待ツノ態勢ニアリ、一般人心ハ平

穏ナリ。

大日本帝國政府

（折上リ國定規格B5一八二×二五七粍）

九五一

特高秘発第二三號

昭和二十年九月六日

奈良縣警察部長

内務省警保局

保安課長殿

事務官

上田雅紹ハ首相官邸襲撃事件被疑者送局起訴セラレタル者

井上成章ハ右[illegible]ノ息子

身許調査ニ関スル件

ニシテ上京

セシモノ

管下宇陀郡大宇陀町大字上新

井上成章

管下山辺郡丹波市町大字三島

上田雅紹

右者ニ對シ本年八月十四日付御通牒ニ係ル標記ノ件ニ関シ調査候處別

大日本武徳會奈良縣支部

紙ノ通リニ有之
此段及御報告候也

551

身許調査表

一、本籍住所職業氏名生年月日

本籍　奈良縣宇陀郡大宇陀町大字上新一九一八

住所　右仝

會社員　井上成章

大正四年五月十四日生

二、性来歴及動静

性英敏沈着ナル處アルモ感激性ニ富ム

本名ハ昭和十六年三月中央大學卒業後東京帝國新報社ニ記者トシテ就職昭和十七年四月陸軍々屬トシテ比島ニ從軍昭和十九年一月帰國シ大阪市此花区桒園町八一二転住大阪東亜艦船株式會社々員囑託トナリ現在ニ至ルモ最近本籍地

実家ニ仮宅シ目下徒食中ナリ
本名ハ在京當時ヨリ右翼的分子トハ意氣投合シ相當交友関係アリタルモノヽ如ク又在阪後ニ於テハ當地ノ右翼分子数名ト語ヒ思想結社ノ組織ヲ意図シツヽアリタル等本縣ニ於テモ相當視察ヲ嚴ニシツヽアルモノナリ
尚本名ガ急変ニ伴フ言動中ノ主ナルモノ次ノ如シ
(一) 敗戰ノ原因ハ官吏ガ右翼團体ヲ法律規則ヲ以テ拘束シ過ギタ事モ重大ナ一ツダ
(二) 戰争終結ニ伴ヒ憂國ノ士ハ續々ト自刃スル悲痛ニ堪ヘズ斯クナル上ハ万事休スダ
(三) 戰争犯罪者ナルモノヲドノ程度迄行クカ

大日本興行協會奈良縣支部

グ問題ダ右翼共陣営迄波及スレバ日本再建ハ不可能ダ何レ第一線ヨリ凱還スル若イ将校ハ蜂起スルダロウ　云々

三、家庭ノ状況

実父　俊三　当六十一年

実母　又イ　当六十年

実兄　卓三　当三十五年

実弟　勲　当二十九年

仝　将　当二十五年

仝　恭治　当十七年

義姉（兄妻）キミ　当二十七年

姪（兄長女）昌子　当三年

ノ九人家族ニシテ資産モ相当アリ中流以上ノ生活ヲナス

四、前科ノ有無

前科ナシ

五、其ノ他参考事項

ナシ

大日本興行協會奈良縣支部

55-3

身許調査表

一、本籍住所職業氏名生年月日

本籍　奈良縣山辺郡丹波市町大字三島五二七

住所　横浜工業専門學校

戸主　儀市郎ノ二男

上田　稚紹

大正十四年七月十日生

二、性来及動静

性温順ナル處アルモ物ニ激シ易シ

本名ハ奈良縣立郡山中學校卒業後　横浜工業専門學校ニ入學應用化學部ニ學ビ學徒動員ニ依リ瓦斯會社等ニ就勞中本年五月空襲ニヨリ學校及工場共ニ一部被害ヲ受ケ本名ハ身廻品全部焼失シタル

ヲ以テ本年六月本籍地ニ皈宅シ数日後
皈校セリ
皈宅ニ際シテ父ニ洩ラセル言動中次ノ如キ言
辞アリ
「コノ戰争ハ此ノ侭デハ負ケル私ハ同志ノ者数
名ト學徒血盟團ナルモノヲ組織シ私ハ委員
ニナッタコレカラ全國ノ學徒及徴用工員等
ニ呼ヒカケ同志ヲ得レバ戰争モ勝テル」

三、家庭ノ状況

実父	儀市郎	当五十三年
実母	ミサヲ	当五十年
実兄	義治	当二十七年
実弟	儀平治	当十六年
実妹	友子	当十三年

23-4

仝　洋子　当十年

ノ七人家族ニシテ資産約十万円アリ上流

ノ生活ヲナス

四、前科ノ有無

前科ナシ

五、其ノ他参考事項

実父ハ円波市町三島區會議員ノ職ニアリ

実兄義治ハ乙種幹部候補生トシテ目下

「スマトラ」富部隊ニ在リ

大日本興亜協會奈良縣支部

355

保安課長

事務官

特高秘發第四五號

昭和二十年九月二十八日

奈良縣知事 小田成就

（警察部長）

内務大臣 山崎巖殿

國家主義團體ノ解散ニ伴フ

首腦者等ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ本縣關係諸團體ニアリテハ今般別添ノ通リ夫々自發的ニ解散届ヲ提出シ來リタルモノニシテ之ニ伴フ首腦者等左記ノ通リニ有之候條

此段及報告候也

20.10.6 第 号

大日本興亜協會奈良縣支部

一、一般ノ概況　記

大日本一新會奈良分營　國粋同盟奈良支部　皇道翼賛大和分道場等ハ夫々本部ノ解散ニ伴ヒ之ト行動ヲ共ニスルコトヽナリ夫々解散届ヲ提出抵シタルモノナリ

解散後今日ニ至ル迄各團体トモ本部ヨリ何等ノ連絡ナク平穏裡ニ推移中ニシテ何等特異ノ動向ヲ認メラレザルモ特ニ國粋同盟関係ニ於テハ「日本勤労者同盟」ヲ結成スルノ気運アリ其ノ中心分子ハ同將下同党員ニ対シ本同盟ニ参加方同方勧誘中

ナ5 6

ナリ縣下ニ於ケル斯種團體ニ於テハ
在来有名無実的存在ニシテ今後ニ
於テモ中心人物ナキタメ活潑ナル活動
ヲ為スノ気力ナキ状況ナリ

二、各支部等（分営）ノ意嚮

大日本ノ新會
奈良分営等　大谷[illegible]一
九月十九日本部ヨリ解散決定ニ關スル通
達ヲ受取ツタ斯クナラウコトハ予想シ
テキタコトデアル終戦以来運動ノアツタ
ノハ之ガ初メデ恐ラク書面通リ之ガ
最後ト思フ新事態下我等團体
トシテノ結束行動ハ全ク出来ナクナツタ
故頭山満翁ノ提唱サレタ道ノ浪人

大日本興亜協會奈良縣支部

道ヲ生カスノハ人デ後ニ在ルト思フ勿論
聯合國軍ノ下ニ於テハ表面化シタ
運動ハ絶体出来ナイガ日本民族ノ
生存スル限リ我等モ生キ抜カネバナラ
ヌカラ本部トシテモ國体護持ト一般
國民ノ利益ヲ中心トシテ運動ハ續ケ
ラレルト思フカラ私トシテハ當分ノ間
静観スルツモリデス

國粋同盟
奈良縣支部
代表者（相談役）別府藤次郎

本同盟ノ解散ハ私ガ八月十七日大
阪支部ニ連絡ノタメ訪レタ際口頭
デ指令ヲ受ケタ

本縣ハ支部ト云ッテ何等活動ナク先般同志ガ集合シ私ノ事務所ヲ本部トシテ何カ仕事ヲ始メヤウトシタ矢先コンナ事ニナッタガ既ニ幹部モ元参議 藤吉男 企劃局長吉松正勝ノ新構想タル勤労組合ハ日本勤労者同盟ヲ結成準備中デアリ同頃ニナレバ大体軌道ニ乗ルコト、思フ今後ハ之ノ方向ニデモ進マネバナラヌト思ッテ居ル在寧同志モ賛成シテ呉レルコト、思フ

皇道翼賛道場
大和合道場長 亀井敬彦

大日本興亜協會奈良縣支部

大和會道場ハ私以下十七名ヲ以テ組織シテキタノデアリマスガ大阪本部解散後ハ何等活動スルコトナク私モ奈良縣義勇隊本部ニ勤務致シマシタガ此ノ有様デハ何トモ申シ上ゲラレマセント

前提ノモトニ

(イ) 私ノ一番憂慮セラレルノハ將來陛下ト臣民ト離間スル事ノナイ様ニ案ジテヰル米國ノ政策ハ現在ノ處ウマクシムケテヰル吾々ハ今日ノ様ナ無條件降伏ニモ不拘何等憂フル事ナク秩序ガ維持出來ルノハ陛下ノ御蔭デアル此ノ際國家再建ノ第一歩ハ陛下ヲオ護リスルコトダ國体護持ハ如何ナ事

55-8

ガアッテモ陛下ヲ御護リ抜カネバナラナイ
コトデアル時半世紀ノ洗禮ヲ克
ク看破シ陛下ト臣民トガ離間スル事
ノナイ様臣民ノ指導ヲ宜シク念願ス
ル

(ロ) 指導者層ノ心構ヘ

戰爭ニ負ケタ例ハ種々アルガ今回
位ノ指導者ノやり方ハ自己主義的
ナ事ガ多カッタ一ツノ例ヲ見テモ軍ノ物資
ニシテモ上層部ニ於テハ下層部ヨリモ多ク
取ッテヰル之ハ親ト子トノ例ヲ引イテモ
判ル事デ親ガ食物ヲ節約シテ子ニ討ヨ
シテ多ク捧ゲル事ハ何者モ笑ハナイ
而シテ其レガ情ト云フモノデ之ガ無カ

大日本興行協會奈良縣支部

ツタノデアルカラ今後ノ指導者ハ自己的ナル考ヲ止メテ將來行クベキダト思フ本氣ハ今後ニ一反歩餘ノ田地僅カナ畑デアルガ之ヲ耕作シ食糧増産ニ邁進スル意嚮ヲ現シタリ

三、將來ノ見透

縣下ニ於ケル國家主義諸團体ハ一應解消シ政治又ハ思想團体ヲ結成スルノ氣運ハ現在ノ處認メラレザルモ國粹同盟関係ハ日本勤労者同盟トシテ政治團体ヲ結成シ同會員ヲ傘下ニ收メルベク講演運動ヲ考慮中ニシテ若干ノ活動ヲ予想セラルルモサシテ活發ナル活動ハ期待シ得ザルモノト考ヘラル

大日本一新会解散ニ付届

大日本一新会分会奈良一新会
会長 責任者 大谷吉一

今般当分会ハ中央本部ノ解散ニ伴ヒ
昭和二十年九月十五日ヲ以テ解散致シ候間
此段及御届候也

奈良市鳴川町九番地
大谷吉一

内務大臣 山崎巌殿

169

解散届

一、名称 國粹同盟奈良縣支部

一、事務所所在地 奈良市油阪二丁目四拾番地

一、責任者 黒田惣吉

右ハ今般戦争終結ト同時ニ中央本部解散ニ伴ヒ自然解散致候ニ付キ此段及御届候也

昭和二十年九月二十九日

奈良市油阪二丁目四拾番地

黒田惣吉

内務大臣山崎巖殿

5-68

結社解散届

一、名稱　皇道翼賛道場大和分道場

一、設立月日　昭和十六年二月十日

一、事務所　奈良縣高市郡高取町大字清水谷
一〇二四番地

一、主幹者

本籍　奈良縣高市郡高取町大字清水谷一〇二四番地

住所　右同

亀井敎孝

右今般解散致候条此段々御届候也

昭和二十年九月二十日

右　亀井敎孝（印）

右　[illegible]井[illegible]

内務大臣　[illegible]殿

[illegible]

[illegible]井[illegible]

[illegible]

[illegible]

一、[illegible]

[illegible]

一、[illegible]

一、[illegible]

一、[illegible]

[illegible]

六

562

特高秘發第四一號

昭和二十年九月二十八日

奈良縣知事 小田成就

事務官 主

保安課 20.10. 4 受 第 号

復員者九七ノ二万・中 三十%ハ徒食

内務大臣 山崎巖殿

近畿地方総監殿

復還軍人等ノ動向ニ関スル件

終戦後ニ於ケル軍人軍属等ノ復員ニ関シテハ管下所在ノ各部隊並諸学校ニアリテハ終戦後處理ノ為メ残留スル一部要員ヲ除キ既ニ大部分ガ復員ヲ完了シ其ノ間何等特異事象ノ発生ヲ見ズ頗ル平穏裡ニ推移セルガ残留要員ニアリテモ来月上旬

頃ニハ夫々事務引継ノ上復員ヲ完了スル

予定ナリ

而シテ管下出身ノ軍人軍屬等ハ逐次

復員歸郷シンガ總數ハ本月十日現在

約二萬名ニ達シ引續キ復員中ナルガ一部

復員者ノ軍用物資持歸リハ部民ノ

反感ヲ買ヒタルモ全般的ニ極メテ平靜ニシテ

其ノ状況左記ノ通リニ有之

右及報告候也

563

記

一、軍人軍属等ノ復員状況

聯合國軍横須賀進駐前後ヨリ復員ヲ開始セル軍隊諸学校学生々徒軍属ハ一斉ニ歸省ヲ急ギタル為メ交通機関ハ一時混雑ヲ来シ殊ニ一部ノ軍用物資（食糧衣料品）ノ復員ノ際ノ持帰リハ地方民ノ反感ヲ買ヒタルモ其ノ間適當ナル警察指導等ニ依リ事故ノ發生ヲ見ルコトナク夫々ノ家郷ニ落付キ今ヤ後ノ身ノ振リ方ニツキ考慮中ニアリ管下出身者ノ復員状況左表ノ通リナリ

（九月十日現在）

種別 / 陸海軍別	現役軍人	應召軍人	諸学校学生生徒	軍属	其他	計

陸軍	三、八二	六、三九七	五三八	一、六〇〇	二四一七
海軍	二、三八	三、七三六	五七四	一、一四三	七、七七一
計	六、二〇〇人	六、一三三人	一、一一二人	二、七四三人	六、一八八人

二、復員者ノ就職状況

復員者ノ過半数ハ農山村出身ナル為メ前職復帰モ容易ニ行ハレ約五〇%ハ従前ノ農業或ハ林業等ニ復職セルガ一部工場事業場方面ヨリ応召入隊セルモノハ殆ンド復職不可能ノ状況ニアリテ一部他業ニ転ジタルモノヲ除キ約三〇%ハ徒食中ナリ

564

而シテ工場方面ノ現況ニ照シ今後復員ノ進捗ト共ニ就職不能者ハ益々増大スルモノト認メラルヽガ目下ノ状況左表ノ通リナリ

（九月十日現在）

種別／陸海軍別	復員総数	従前職業ニ復帰セルモノ	他職業ニ就職セルモノ	失業徒食中ノモノ	其他
陸軍	一二四一七	六七五六	一四〇二	三七一一	九八一
海軍	七七七一	三九九五	七一七	二一六七	四五九
計	二〇一八八	一〇七五一	二一一九	五八七八	一四四〇

大日本興行協會京浜支部

特秘第九八五號

昭和二十年八月三十日　和歌山縣知事　小林千秋

内務大臣　山崎　巖殿

近畿地方總監殿

現役陸軍少尉自決ニ關スル件

本籍　京都市上京區紫野大德寺町八〇

住所　和歌山縣海草郡加太町

中部第七五部隊勤務

陸軍少尉　福尾稔勝

當二十七年

右ハ詔書渙發セラレテヨリ沈思默考ヲ續ケ居リテ部隊ニ在リテモ其ノ動向注意中ノ所本月二十一日加太町山林内ニ於テ妻美代子（當二十三年）

保安課 20.9.10 受 号

ヲ日本刀ヲ以テ殺害ノ上同所ニ於テ自刄セリ
本件ニ關シテハ部隊ニ於テ厳秘ニ附シ居リタル爲本月二十八日迄判明ニ至ラザリシモノニシテ遺書ノ如キモ分明ナラズ眞相ノ探究困難ナルガ諸種ノ情況ヨリ洞察スルニ本名ハ武人トシテ豪胆ノ至情抑ヘ難ク死シテ護國ノ神ト化スノ途ヲ選ビタルモノト思料セラルルモ時局下之ガ反響大ナルモノアルヲ以テ該部隊内ノ動向ニ關シテ鋭意注意中ニ有之

右及申報候也

尚加太駐屯陸海軍各部隊ニ在リテハ既ニ其ノ三分ノ二程度ヲ歸還セシメタルモ海軍部隊ノ將校ノ一部ニ於テハ當分ノ間附近民家ニ隱住セントスル空氣濃厚ニシテ目下注意中

又陸軍第七五部隊及第四一五〇部隊ノ各部隊長ノ言動等ヨリ洞察スルニ部隊解散後該部隊長等ハ或ハ自決スルニ非ズヤト思惟セラルル處アリ申添候

特秘第九九四號

昭和二十年九月三日

和歌山縣知事 林千秋

内務大臣 山崎 殿

近畿地方総監 殿

満鮮ヨリ歸還セル軍人ノ特異言動ニ關スル件

戰爭終結ニ伴ヒ逐次各部隊ノ召集解除ニ依リ歸還セル軍人ノ中ニハ動モスレバ現地状況等誇大ニ吹聽シ未歸還將兵遺家族並ニ一般[illegible]民ヲシテ不安憔悴セシムル等ノ傾向散見セラレ之等歸還軍人ノ言動ニ關シテハ鋭意注意中ナルガ

最近満洲及朝鮮部隊ニ於テ一部現地解除ニ依リ歸還セル軍人ハ満洲及朝鮮ノ非常ナ混亂状態等ニ關シ

一、満人及朝鮮人ノ一部ハ日本人ノ家屋ヲ破壞シ物品ヲ剝奪、婦女子

課 20.9.13 号

要旨

ニ暴行ヲ加ヘル等滿洲國ハ非常ナ混亂狀態ニアリ

2、滿洲國邦人ハ喰フニ食無ク住ムニ家ナク全ク氣ノ毒デス

3、途中軍人ノ姿ニテハ捕虜トナル爲襲撃セル滿人ヲ殺害シ其ノ服ヲ取リ變裝シテ朝鮮ニ歸ツタノダガ全ク滿洲ニ居ル兵隊及邦人ノ内地歸還ハ望メナイダロウ

4、朝鮮ニ居ル内地人ハ朝鮮人ノ顔色鼻息ヲ見テ小サクナツテ生活シテ居ル、之等ノ内地人ハ早ク米國人デモ英國人デモ進駐シテ來テ呉レレバトソレ許リヲ希望シテ居ル仕末ダ

5、鮮人達ハ俺達ハ三十有餘年間日本人ノ爲ニ噓サレ苦シメラレテ來タ今コソ敗戰國日本人ガ身ヲ持ツテ俺達味ハツタ苦シミヲ味フ時ガ來タノダ、朝鮮ハ獨立シタノダ何モ敗戰國日本ノ指揮ヲ受ケル必要ガナイ

「コヤツ」達ノ爲ニ隨分長イ間吾等同胞ガ虐待サレタ今コソ長恨ヲ晴ス時ダト云ツテ自分達ノ後ヲ追ツテ石ヲ投ゲタリ日本人ノ商店ナ

ド破壊シ或ハ暴行掠奪ヲ制止スル警察官ヲ殺シタリ現在日本人ハ逃ゲ
場所ニ困ツテ居ル

6、我等同胞ハアンナニ暴行ヲ加ヘラレテイルノニ今ダニ内地デ朝鮮ノ
米喰蟲ガ大キナ顔シテ歩イテイル、コレダカラ日本人ハ弱イノダ
朝鮮ニ居ル同胞ノ為ニ復讐心ヲ呼ビ起セ

云々等ノ特異言動洩セルヲ以テ厳重訓戒ノ上他言禁止ノ措置ヲナシタリ
主ナル言動左記ノ通リニ有之

右及申報候也

記

一　和歌山市友田町四丁目一二三
土井篤志

八月二十六日私達平壌歩兵部隊デ三百人ノ古年次兵ガ解除デ帰ル事ニ
ナリマシテ釜山デ知合ヒノ人ニ頼ンデ連絡船ニ漸ク三人乗セテモラ
ツテ帰ツテ来タガ全ク平壌カラ釜山ノ連絡船ニ乗ル迄ノ間ノ氣味ノ悪

イ空氣ハ今カラ思ッテモドットスル、朝鮮全土ノ軍隊ハ十五日以降全無能力ダ。唯ダ一ツノ總督府ノ警察機能ハ彼ノ混亂狀態デハ手ノ下シ様モナク第一朝鮮出身ノ警察官カラ官服ヲ捨テ、群衆ノ先頭ニ立ッテキルノダカラ始末ガ惡イ。街ノ電柱ニハ何時ノ間ニカ不穩ナ貼紙ガ日本語ト朝鮮文字デ

「俺達ハ三十有餘年間日本人ノ爲ニ嘘サレ苦シメラレテ來タ。今コソ敗戰國日本人ガ身ヲ持ッテ俺達ハ味ッタ苦シミヲ味フ時ガ來タノダ」

ト言フ様ナ書ヲ貼出シテキル

平壤、京城、大邱邊リデハ大擧不逞者ガ押寄セテ焼打チ掠奪等モヤッタト聞ク、田舍ノ方ヘ行クト相當數ノ日本人ガ殺サレタトカ汽車ニ乘ッテモ道路ヲ歩クニモ勿論一人歩キハ白晝デモ危險ダガ、朝鮮人ノ顔色鼻息ヲ窺ヒ小サクナッテ生活シテキル。從ッテ之等內地人ノ人達ハ早ク米國人デモ英國人デモ進駐シテ來テ吳レレバ夫レ許リヲ希ッテキル様ナ始末デ此ノ狀態ガ日一日ト經過スルト增長スル朝鮮人ハ何ンナ

事ヲ内地人ニスルカ判ラナイ」云々

二、和歌山市中之島北ノ丁（中之島食堂）

歸還軍人　某

１、羅津ニ於テ乗船中停戦後ニモ不拘ズ敵米機ノ攻撃ヲ受ケ瞬時ニシテ沈没シタ爲海中ニ逃レタ者多數アツタカ執拗ナ攻撃ニヨリ生キ殘ツタ者ハ僅カ六七名デシタ他ノ者ハ歸還一歩前ニ可愛想ニモ犠牲トナラレタ事ダ

２、停戦後ニ於テ朝鮮ハ獨立シタノダ、何モ敗戦國日本ノ指揮ヲ受ケル必要ガナイ、「コヤツ」達ノ爲ニ隨分長イ間吾等同胞ガ虐待サレタ今コソ長恨ヲ晴ス時ダト云ツテ自分達ノアトヲ追ツテ石ヲ投ゲツケタリ日本人ノ商店ナドヲ破壊シ目星シイ物ハ全部掠奪サレタ、制止ニ行ツタ警官ナドハ殺サレテ現在デハ日本人ハ逃ゲ場所ニ困ツテイル

3、朝鮮デハ内地人ノ一人歩キハ危険ダ日本民家モ戸ヲ開ケラレナイ状態ニアルノニ内地ノ者ハ何ンダ、同胞ガアンナニ暴行ヲ加ヘラレテ居ルノニ内地ヘ来タラ何ダ全ク思ヒモヨラナイ事ダ、朝鮮ノ米喰虫ガ今ダニ大キナ顔ヲシテ歩イテイルデハナイカ、是ダカラ日本人ハアカンノダ朝鮮ニ居ル同胞ノタメ復讐心ヲ呼ビ起セ

4、内地部隊ノ帰還兵ハ相當澤山ナ物ヲ持ツテ帰ルガ自分達ノ様ニ外地部隊者ハ衣物ドコロカ満足ニ身モ帰レナイ状態ダ之デハ外地勤務者ハ可哀想ダ

三、新宮市　帰還軍人　陸軍曹長　前　正雄

ソ聯参戦ト同時ニソ満國境ハ突破セラレ関東軍ハ全ク無抵抗ナル為満洲國深ク敵軍ニ浸入セラレ奉天ノ軍需資材ハ敵ノ手ニ落チ皇軍ノ無抵抗ニ附入リ満人及朝鮮人ノ一部ハ日本人家屋ヲ襲撃シ物品ノ強奪、婦女子ヘノ暴行等凡ユル暴行ヲ加ヘ来リ為ニ邦人ハ着ノミ着ノ儘山野ニ

369

避難シ滿洲國ハ非常ナル混亂ニ陷リ各鐵道ハソ聯軍ニ占領セラレタル爲汽車ニ乘ル事モ出來ズ徒歩ニテ朝鮮方面ニ向ヒツツアルガ其レモ途中ニテ襲撃ヲ受ケ着テ居ルモノデモ目星シイ物ハ首剝ギ取ラレ居ル狀態ニシテ我々軍人ニテモ一物ヲモ持チ得ズ僅カニトランク一個ヲ軍刀・ピストル等ニテ威シ付ケ漸ク持チ來レルモノニシテ邦人ハ食フニ食無ク住ムニ家ナク全ク氣ノ毒ナモノデス。邦人ハ軍人ニスガリ如何程ノ犧牲ヲ拂ッテモカモハナイカラ内地ニ連レテ歸ッテ呉レトスガラレタルモ我々トシテモ自分ノ身モ持チ兼ネ居ル爲其レモ出來得ズ全ク氣ノ毒タッタ

途中軍人ノ姿ニテハ捕虜トナル爲襲撃セル滿人ヲ殺害シ其ノ服裝ヲ取リ變裝シテ朝鮮ニ渡ッタノダガ兵舍ハ爆破スルシ部隊ニハ部隊長モ部隊ヲ指揮スル幹部モ何處カヘ行ッテ終ッテ居ラズ或ル者ハ山ニ逃ゲ或ル者ハ匪賊トナリ捕虜ヲ潔シトセズ逃ゲタルモノニシテ全ク滿洲ニ居ル兵隊及邦人ノ内地歸還ハ望メナイタロウト若シ歸レテモホンノ一部位ダロウト云ッテ居リ朝鮮ニ逃入ッテモ既ニ平壤等ハ敵軍ソニ占領セラレ居ル爲

軍人タルコトガ判レバ忽チ捕虜トナル爲「ボツボ蒸汽船」ノ船長ヲピストル等ニテ威シ付ケ命カラガラ内地ニ渡ツテ來タ様ナ次第デ家ハ掠奪ヲ受ケ婦女子ハ暴行ヲ受ケ全ク見ルニ忍ビナカツタ、歸ル時ハ此ノ仇ヲ必ズ取ツテ呉レト我々ニ泣イテ別レテ來タ有様ニテ全ク滿洲ノ狀態ハ言語ニ絶スル有様ナリト

579

特秘第一〇〇六號

昭和二十年九月五日

和歌山縣知事 小林千秋

内務大臣 山崎巖 殿

近畿地方總監 殿

井上日召ヨリ士林道場長宛通信越ニ關スル件

対覺昭和二十年八月九日特秘第九八一號

管下 紀伊村ニ在ル

四力建會經營 士林道場長 井上 右

右者ノ動向ニ關シテハ對覺既報ノ通リ新事態下維新陣営ナルモ、去就決定ノ為上京ヲ意圖シツヽアル處ナルガ九月四日同人宛井上日召ヨリ通信越アリタリト其ノ内容等ニ關シ左記ノ如キ言動ヲ洩ラシ居リ

井上日召ノ事

日召様四月ハ總監ヘ

後更迭スルし

保安課 20.9.4

右参考ノ為　及申報候也

記

井上日召ノ通信内容ハ「宮様内閣ハ総選挙後ニ於テ更迭サルル事ニナツテヰル　政党ノ復活ガ急ニ活発化サレルガ次期内閣ハ必ズシモ多数党ノ総裁ガ組閣スルトハ限ラナイ」　ト極ク簡単ナモノデアツタ

今後ニ於ケル思想運動ハ従来ト多分ニ異ツタ方法ヲ採ラネバナラヌ

政治運動ニシテモ従来ノ徒輩ガ又頭ヲ擡ゲル事ニナレバ新日本建設ハ到底望メナイ。　故ニ将来ノタメ政界ニ乗リ出ス可キ算デアル

了

71

特秘第一〇〇八號

昭和二十年九月十日

事務官

和歌山縣知事　小林千秋

内務大臣　山崎巖殿

近畿地方總監殿

大阪陸軍被服支廠在庫被服処分ヲ繞リ
不穏文書投入事件発生ニ関スル件

客月二十二日
管下伊都郡笠田町所在
大阪陸軍被服廠笠田支廠第二分散倉庫
内ニ
「若シ在庫被服ヲ敵手ニ渡スナレバ今ノ中ニ焼却スル」

保安課
20.9.24
第　号

和歌山縣

云々ノ記載アル不穏文書ヲ投入シアルモノアリ目下犯人ノ捜査ニ努ムルト共ニ不慮ノ災害ヲ蒙ラザル様厳重警戒ヲ実施中ナルモ本事件ノ概況左記ノ通リニ有之候條御参考迄及申報候也

記

一、事件発生ノ概況

(1) 日時　八月二十二日　早朝

(2) 場所　大阪陸軍被服廠笠田支廠第二分散倉庫表入口

(3) 文書ノ内容（半紙版罫紙二ツ切リニ萬年筆ヲ以テ記載セルモノ一通）

「一寸尋ねる
此の中の被服は如何にするか
もし敵国に渡すなれば
今の中に焼捨ってやる」

平民を思ふ者より

(4) 倉庫ノ周囲及投入ノ状況

本倉庫ハ国道第十六號線大和街道ニ沿ヒ周囲ハ板塀ヲ以テ囲繞サレ表入口ニハ高サ一丈余ノ開戸アリ該文書ハ此ノ開戸ノ隙間ヨリ投入サレタルモノナリ

二、倉庫ノ警備状況

本倉庫ハ晝夜ノ別ナク四名ノ軍属ヲ以テ警備ニ当リ殊ニ夜間ハ一時間交代ニテ内外ノ巡察警戒ヲ為シツヽアリテ従前ヨリ相當厳重ナル警戒ヲ実施シ居リタルモノナリ

三、本件敢行ノ動機

未ダ犯人検挙ニ至ラザルモ諸種ノ状況ヨリ勘案

和歌山縣

スル＝急激ナル戦争ノ終結ニ因リ憂国ノ至情抑ヘ難ク且又対敵憎悪感ヲ弄ヨリ敵手ニ渡スヲ快トセズ本犯敢行ニ至リタルモノト認メラレ視線内外ノ要注意人物乃至ハ本支廠ヨリ最近解雇サレタル者ノ仕業ト思料セラル

四、本件ニ関スル措置

本会軍衣軍品ニ関シテハ戦争終結直後本県ニ於テ該支廠ト交渉ノ結果統制会社ニ引渡方契約済ナルモ本事件発生ニ因リ早急ニ引渡方折衝スルト共ニ所轄署ヲシテ警戒ヲ厳ニセシメ不虞ノ災害防止ニ努メツヽアリ

五、其ノ他

戦争終結以来斯種事件ノ発生ヲ看リ軍干係念軍ノミナラズ管下ニ於ケル軍施設、工事場、資材置場

其ノ他治安上考慮ヲ要スベキ重要区域ニ對シテハ干係各署ヲシテ特別警備隊員ヲ配置セシメ夜間ハ擔當区域ヲ定メ巡察警戒ニ當ラシムルト共ニ外勤巡査ヲ督励シ特ニ夜間警邏ノ徹底ヲ期セシムル等ノ各種事故ノ予防検挙其ノ他治安維持上遺憾ナキヲ期シツヽアリ

和歌山縣

5-74

特秘第　號

昭和二十年九月十日

和歌山縣知事　小林千秋

内務大臣　山崎　巖　殿

結社許可證ニ關スル件

昭和十六年十二月二十七日付内務省發警第一〇九號通牒ヲ以テ御送付被下候結社許可證殘餘分ハ七月九日當和歌山市ニ對スル空襲ニ因リ文書庫ニ於テ全部燒失致候ニ付テハ至急相當部數御送付相賜リ度此段及申報候也

特秘第一〇〇四號

昭和二十年九月十一日

和歌山縣知事 小林千秋

内務大臣 山崎巖 殿

近畿地方總監 殿

現下ノ諸情勢ニ對スル部民ノ動向ニ關スル件

首相宮殿下ノ日本再建ニ關スル御構想ノ闡明竝ニ敵軍ノ進駐及降伏調印等ヲ繞ル部民ノ動向ニ關シテハ概要左記ノ通リニ有之候條此段及申報候也

記

一、首相宮殿下ノ日本再建ニ關スル御構想闡明ヲ繞ル動向

大膽卒直ニ御構想ヲ闡明セラレタルコトハ宮殿下ノ首相ニシテ始メテ成シ得ラルルコトトシ各層ニ亘リ感銘一入深キモノアリ、殊ニ臨時議

保安課 20.9.20 第 号

和歌山縣

曾ニ於ケル敗戰ノ眞相御發表ニ就テハ異常ナル關心ヲ持シツツアリテ
全般ヲ通ジ本基本政策ノ強力ナル斷行ニ絶大ナル期待ヲカケツツアル
ヤニ窺取セラルルモ一部ニ於テハ依然左ノ如キ希望乃至不安的言動ヲ
爲スモノ散見セラルル狀況ニ在リ

1、敵國ノ嚴重ナル監視下殊ニ敵ノ一方的指示ニ俟ツヨリ外ナキ立場ニ於テ果シテ其ノ意圖スル政策ノ斷行ガ出來ルデアロウカ

2、言論結社ノ自由ニ依リ將來ハ左翼分子ガ政界ニ幅ヲ利カス樣ナコトニナリ或ハ各種政黨政派ガ抬頭シ新日本建設上對內外共ニ國論ノ統一至難ニナルノデハナイカ

3、法律政變議會ノ弊凡打破民意ノ暢達上議會ノ解散當然デアルガ獨リ衆議員ノ刷新ニ止ラズ貴族院ノ面ニ於テモ根底ヨリ改革スベキダ之ニ伴ヒ華族制度ノ撤廢モ喫緊ノ問題デアル

二、敵軍ノ本土進駐並ニ降伏調印ヲ繞ル動向

敵軍ノ本土進駐敵機ノ監視飛行ノ實施並ニ降伏調印ノ終了等ヨリ逐次

敗戰ノ冷嚴ナル事實ニ對スル認識ヲ深メツツアリテ全般的ニハ嘗テハ敵ニモ斯ル憂目ヲ味ハセタル過去ノ事實ヲ批判反省シ降伏セル以上如何ナル艱難辛苦ニモ耐ヘ國体護持ノ最後ノ一線ヲ堅持セントスル決意ノ程窺知セラルルモ内心戰爭指導者ニ對スル不滿、敵ノ日本處理方策ニ對スル不安等ヲ内藏シ兎角ノ言動ヲ爲スモノ尠カラズ其ノ概要左ノ通リ

1、戰爭指導者(東條大將)ニ對スルモノ

イ、降伏ニ至ラシメタノハ東條ノ責任デアル、九月二日ノ降伏條件ニ對スル調印ヲ見テ彼ハ自殺ヲ遂ゲサルヲ得ナイデアラウ

ロ、東條ハ戰爭ノオ蔭デ成金トナツテ別莊住ヒヲシテ居ルソウダ

ハ、東條ハ滿洲國ニ逃ゲタソウダ

等々敗戰ノ全責任ハ東條元總理ニアルカノ如キ言動最モ多ク流言ト相俟チテ再ビ批難ノ聲昂リツツアリ

2、敵ノ日本處理方策ニ關スルモノ

和歌山縣

イ、敵ハ我ガ國經濟ヲ徹底的ニ壓迫スルト共ニ頽廢的享樂ヲ普及シ
日本精神ノ掃滅ヲ圖ルダロウ
ロ、日本ニ負擔ヲカケ乍ラアメリカノ名目ノ下ニ公共施設トシテ
大病院ヲ造ツタリ道路ノ擴張或ハ享樂施設等全ク米國ニ突拍子
モナイコトヲドシドシヤツテ國民ノ關心ヲ集メ米國崇拜ノ思想ヲ
根強ク植付ケルダラウ
ハ、教育享樂思想等總ル角度カラ國体觀念ノ掃滅ヲ圖リ結局日本
人ヲ骨拔ニシテ終フダラウ
ニ、米國ハ日本ヲ將來ノ對ソ戰ノ足場トシテ總テヲ進メツツアル
ホ、天皇ノ大權迄制限スルトハ言語同斷ダ之デハ最後ノ希望デアル
國体ノ維持モ危イノデハナイカ
等々ノ臆測ヲナシツツアルモ「要ハ魂迄敗北セザルコトダ」トシ警
戒心ヲ振起シツツアリ
3、戰爭犯罪人問題ニ關スルモノ

1-77

イ、東條大將ハ死刑勿論ダガ其ノ他ハ餘リ大シタ處罰ハナク數ハ大体五百人位ダラウ

ロ、荒木大將ハ相當惡ク見ラレテ居ルガ尾崎行雄ハ最後迄一本デ通シタノデ輿論ハヨイ

ハ、新聞社ノ方ハ朝日ハ良イガ毎日ハ惡ク見ラレテイル

ニ、地方長官當リ迄ハ多少共制裁ヲウケルダラウ

等流言等シイ言動散見セラレ兎角ノ批判ヲ爲スモノアリ

4、不安的部面ノモノ

被害、徵發ニ暴行或ハ邦貨ノ低落、經濟恐慌並ニ食糧饑饉、失業問題等ニ關スル不安悄惱ハ益々深化ノ兆濃ニ在リ之等ニ關シテハ鋭意傘下關係各機關ヲ指導督勵シ民心ノ安定ニ努力中ニシテ比較的平靜ナルモ

、管下伊都郡學文路村ニ於テハ

聯合軍ノ爲戰死者ノ墓碑ヲ損壞サレテハトノ不安ヨリ自發的ニ埋沒シ又國民學校講堂ニ掲出ノ戰死者ノ寫眞ヲ自宅ニ持チ歸ル等ノ特異事象

和歌山縣

ノ發生アリタリ

（本件ニ關シテハ杞憂ナキヲ諭示阻止ノ措置ヲ講ジタリ）

三、主ナル言動

那賀郡粉河町　サクラビール會社重役　本村正一

宮殿下ハ總理ニ當ラレタ事ハ全世界ニ相當影響ヲ及ボシテ居ル

米國國務省ニ於テモ日本進駐ニ對シ緊張ニ緊張ヲ重ネテ戰後處理ニ當ルベキ態度ヲ示シツツアル事ハ明確デアル

マッカーサーニ於テモ日本ノ正義ヲ眞向ヨリ受入レ戰爭終結ニ樂觀態度ヲ示メシテ居ル

故ニ此ノ靜ナ國民ノ動向ガ斯ノ儘推移セラルレバ茲四、五年前後デ戰爭ハ終結シ講話條約ノ實現ヲ見ル事ト信ズル、然シ我々國民トシテ最モ考ヘネバナラヌ事ハ

聯合軍ノ進駐ハ我ガ國內經濟ニ對スル壓迫享樂ニ依ル日本精神ノ掃滅

5-78

斯ノ二問題ニ付キルト思フ。敵米國ハ斯ノ二問題ヲ目標トシテ進駐ヲ企圖シツツアル事モ絶對ニ間違ノナイ處デアル

我々國民ハ自覺シ上下一致堪ヘ難キヲ忍ビ日本精神ヲ堅持シ自給自足ノ經濟体制確立ニ本腰ヲ入ルルベキダト思フ

言論集會結社ノ自由ニ就テ言ヘバ

日本ハ「法匪國」（法匪國トハ法律ノ匪族ノ國ト謂フ意）ナリト滿洲國デハ叫バレテ居タ所以ハ日本ノ法治國ヲ裏書シタ言葉デアル

又全世界ノ各國々內事情ヲ觀察シテモ言ヲ俟タザル魔法律ガ網ニ過ギタ事ハ實際デアル

此ノ言論集會結社ノ自由範圍ヲ廣範大シ立憲政体ノ本能ヲ發揮スベキト思フ。英國デハ特ニ言論ノ自由バ緩相サレテ居テ共產主義者ガ路上デ演說スレバ一般國民ハ之ニ質問セル程度迄ニオ互ニ言論爭ニ依ツテ文化ノ向上ニ努メテ居ルソウデアルガ斯ル程度迄ニ言論集會結社ノ自由ハ認メラルルモノト期待シテ居ル

戦時議會ノ様相ヲ今カラ振返ツテ見ルト全ク「法律議會」デアツタ
戦争ノ爲ニ法律議會モ重要カモ知ラナイガ結局戦争ニ負ケタノデアル
カラ之ヲ見テ法律議會ノ好果ガ判断シ得ルト思フ
宮殿下ノ御説ノ通リ総選挙ハ一刻モ實施シ眞ノ國民ノ聲ヲ聞キ官民一
体國体護持ニ當ルヿガ緊喫ノ要務デアル
之ニ伴ヒ選挙法改正又重要ナル事デハアルガ先ヅ國体護持ノ第一要
諦ハ國家ノ審所デアル貴族院議員ノ議院組織ヲ根底ヨリ改正スベキダ
ト思フ。
之ニ伴ヒ華族制度ノ撤廃ガ緊喫ノ問題デアラウ。

伊都郡學文路村

証券業　松永定一

今後ノ推移ハ全ク不明デスガ此處二、三年モ経レバアメリカ様々ト
言フ様ナ事ニナルデセウ。一万デ負擔ヲ掛ケ乍ラ公共施設トシテ大病
院ヲ造ツタリ道路擴張、映畫ノ上カラデモアメリカノオ蔭ダト言フ様